

F32M方式と同時に開発されたF-100M方式

F-100M system developed at the same time as F-32M system (1982)

F-100M方式は、通信網のデジタル化を実現するための経済的なデジタル伝送方式として、F-32M方式と同時に開発され、1982年に中容量の光ファイバケーブル伝送方式として実用化された。F-32M方式と共に、トラヒック量・伝送距離によって使い分けられ、F-32M方式は主に市内中継伝送、F-100M方式は主に県内中継伝送に用いられた。

SDH多重以前の光通信方式の概要

Overview of optical fiber transmission systems before SDH

項 目		F-6M 方式	F-32M 方式	F-100M 方式	F-400M 方式	F-1.6G 方式
伝送速度(Mbps)		6.312	32.064	97.728	397.200	1588.8
伝送容量(ch)		96	480	1,440	5,760	23,040
発光素子		InGaAsP-FP-LD		InGaAsP-FP-LD, InGaAsP-DFB-LD		InGaAsP-DFB-LD
受光素子		Ge-APD		Ge-APD, InGaAs-APD		InGaAs-APD
伝送距離	G I	20km		10km	—	
	SM(1.3 μ m)	30km		40km		
	SM(1.5 μ m)	—		80km		